

設問1

研究対象者が実施する課題を設定する際の考え方について、誤っているものはどれか、一つ選べ。

A1	全ての研究対象者に対して、課題の説明内容を統一することが望ましい。
A2	実施した課題の再現性によって、課題の実施数を変更する。
A3	一人の研究対象者が複数の課題を行う場合、課題を実施する順序は研究対象者間で統一する。
A4	課題実施時には、研究対象者へのリスク管理を行う。
A5	課題を実施する場合には研究対象者の精神的・身体的疲労に対する配慮が必要である。

正解 A3

一人の研究対象者が、複数の課題を実施する場合には、データの測定順序が結果に与える影響を最小限にするために、研究対象者によってデータの測定順序をランダムに設定して実施することが一般的である。

設問2

研究倫理に関連する以下の記述について、誤っているのはどれか、一つ選べ。

A1	インフォームドコンセントを行う場合、口頭による説明と同意を得る必要がある。
A2	治験は医薬品医療機器等法による規制の対象となる。
A3	研究対象者に対して、研究参加によって生じ得るリスクについての説明が必要である。
A4	特定臨床研究に該当する場合は、臨床研究法に沿った対応が必要である。
A5	倫理審査を受けるための計画書に、個人情報保護する方法について記載する。

正解 A1

インフォームドコンセントは書面と口頭によって行う必要がある。

設問3

研究のバイアスに関連する以下の記述について、誤っているのはどれか、一つ選べ。

A1	バイアスとは、明らかにしたい真の結果を誤らせる要因を意味する。
A2	介入を伴う研究では、研究対象者間で、介入内容や頻度を統一する。
A3	ヒトの生体信号を扱う研究では、研究対象者の身体的・心理的状況などによってデータが影響を受けることがある。
A4	ヒトを対象とした研究は動物を対象とした研究よりも一般的にバイアスの影響を受けにくい。
A5	研究対象者の選択基準や除外基準はバイアスの調整に関与する。

正解 A4

一般的にヒトを対象とした研究の方が動物を対象とした研究よりもバイアスの影響を受けやすい。

設問4

理学療法分野における研究について、誤っているものはどれか、一つ選べ。

A1	適切なサンプルサイズを見積もるための要素の一つに、効果量が挙げられる。
A2	介入群に何らかの刺激を与える際に、コントロール群にはsham刺激を与える。
A3	研究機器を設定する際には、その理論的背景を確認する必要がある。
A4	理学療法の臨床場面では、臨床的根拠(エビデンス)よりも基礎研究成果に着目することが効果的である。
A5	理学療法分野において基礎研究は、臨床研究を行うための理論的根拠を得る手段となる。

正解 A4

理学療法の臨床場面においてエビデンスをもとにした実践をしながらも、それだけでは不十分と考えられるような状況では、基礎研究の成果も活用することが望まれる。

設問5

データ収集と得られたデータの解釈を行う上で注意すべき点について誤っているのはどれか、一つ選べ。

A1	研究協力者や研究者の安全面や効率的な動線を考慮して研究機器の配置を考慮する。
A2	実際のデータ取得を開始する前の予備実験の実施は避けることが推奨されている。
A3	データの解釈は、研究の限界も考慮に入れる必要がある。
A4	データの解釈時には拡大解釈に注意を払う。
A5	データ収集は倫理審査を通過した後に開始する。

正解 A2

予備実験の実施によって、適切な機器の設定や配置、効率的な実験手順などを確認することが望まれる。